

ピースワンコ NEWS



ピースワンコ・ジャパンは支持して下さる多くの方々とともに、殺処分機の最後の1台を止めるまで活動を続けます。



私たちの活動

2018年度、私たちは殺処分予定の犬1400頭近くを愛護センターなどから保護する一方、現在は譲渡も月60-80頭に増加させ、累計では1600頭以上を新しい家族のもとへ卒業させることができました。皆さまのご支援のおかげで活動を継続できること、心から感謝申し上げます。

🏠 仙養 / 検疫シェルター

ピースワンコ事業の中心である広島県神石高原町の仙養ヶ原エリアには、検疫シェルターと3つの犬舎があります。検疫シェルターは、愛護センターから毎週引き出される犬たちが最初に入る犬舎です。一定期間、健康チェックやワクチン接種などを行い、状態が安定した後、他の犬舎に送り出されます。スタッフは、感染症などが発生しないようにシェルターを消毒し、投薬や病院搬送の業務も行っています。



3つの犬舎の一つ目は、新しい里親さんとの出会いを待つ犬たちがいるイエロー犬舎。二つ目は、子犬や幼犬がいるティアハイム。3つ目は、持病や障害を持つ犬や、老犬など特別なケアが必要な犬たちが暮らすオレンジ犬舎です。オレンジ犬舎には、「ワンだふるファミリー」の対象ワンコのうち半分以上の40頭が暮らしています。

2018年度は、アニマルホーダーの飼育崩壊による引き取りや愛護センターで妊娠した母犬の引き出しで、子犬の保護が月60頭近くになったこともありました。人馴れの機会をつくりながら状態を良くし、犬たちが少しでも早く卒業できるようにスタッフ一同取り組んでいます。お陰様で、卒業するワンコの数が増え続けています。最近は鳥取県や島根県など山陰地方からも保護犬を迎えに来てくださるご家族が増えており、私たちの活動が少しずつ認知されてきていることを感じます。



嬉しいNEWS!

「ワンだふるファミリー」としてご支援いただいていた老犬と持病のある子が卒業しました！。問題を抱えていることをご理解の上、最後までお世話をしてくださる優しいご家族の元へ迎え入れることになりました。「ワンだふるファミリー」の子にも里親さんとの縁があるように、施設見学のコースの中に特別な看板を設置して目に留まるような工夫をしています。神石高原においての際はぜひご覧ください。



🏠 スコラ / 西山シェルター

西山地区に新しい犬舎が完成しました。両シェルターでは生後半年から10歳過ぎまでの犬たちが暮らしており、スコラシェルターにはクリニックも併設しています。野犬出身の犬も多いので、スタッフが犬の相性をみながら必要に応じてケージ等で管理したり、共有ドッグランを活用して運動量を増やしたり、さまざまな工夫を重ねています。人に興味を持って寄ってくる人懐こいワンコには、人馴れさせるために餌やおやつを手で食べさせ、部屋の中でスタッフが一緒に過ごしたり、お散歩練習をさせたりもしています。最近は、直接スコラシェルターから譲渡会や譲渡センターへ送り出す犬も増えてきました。今後、譲渡できる犬をもっと増やすために、トレーニング体制を強化していきたいと思っています。また、診療所では2名の獣医師が交代で週4日、診察・治療にあたっており、避妊・去勢手術も進めています。



低血糖アラート犬

ピースワンコ・ジャパンでトレーニングしている犬は、災害救助犬やセラピー犬ではありません。犬の嗅覚という素晴らしい能力を活かせる仕事に他にもあります。その一つが、毎日のインスリン補充を必須とする1型糖尿病などの患者が、薬の副作用で血糖値が低くなりすぎたとき、変化する臭気に基づき知らせてくれる「低血糖アラート犬」です。低血糖状態に気付かないまま患者が意識を失い、命の危険にさらされることもあり、アラート犬への期待が高まっています。



ピースワンコ・ジャパンは、佐賀県の認定NPO法人「日本IDDMネットワーク」から委託を受け、低血糖アラート犬の育成に2017年11月から取り組んでいます。日本IDDMネットワークは、自己免疫によって小児期に発症することが多い1型糖尿病の研究を支援し、その患者・家族を支えるNPOです。一般に糖尿病として知られる2型と異なり、1型糖尿病の患者は糖の吸収を促すインスリンを毎日の注射などで補う必要



があるため、患者の苦痛や負担は相当なものです。そして、注射には血糖値を下げる効果がある反面、血糖値が下がりすぎるリスクもあります。

候補犬は、広島県内の動物愛護センターからピースワンコ・ジャパンが保護したアニモ（オス1歳）とアロエ（メス1歳）の2頭。日本初の試みで、トレーニング方法も一から作り上げています。指導しているのは、スウェーデンワーキングドッグ研究所のイェシカ・オーベリーさん。1型糖尿病は緯度の高い地域での発症例が多く、北米・北欧では多くの低血糖アラート犬が育成されています。

低血糖アラート犬の育成のポイントは、患者家族の一員となる家庭犬としてのしつけと、匂いを嗅ぐことに執着できるようにすること。救助犬や麻薬探知犬などと違い、仕事をする時間・タイミングは指示されず、いつ浮遊するかわからない特定の匂いに対し反応しなければなりません。イェシカさんには「特定の匂いを嗅ぐ」ことに夢中になるように訓練指導していただいています。たとえば、人にはわからない、ゴム製のおもちゃの破片の匂い。2頭ともよく臭いを覚え、的確に見つけられるようになりました。

6月からは日本IDDMネットワークのご協力で呼気を集め、実際に低血糖状態時の呼気の選別訓練も始めています。



アニモを迎えるりあんちゃんのお母さんは、「低血糖アラート犬という犬が海外にいることは知っていました。起きている時は本人が気づいてくれたり、まめに測ったりすることができのですが、寝ている時が心配。実際今までに、りあんが寝ている時に測ったら数値が下がっていて慌てて起こしてブドウ糖を食べさせたこともあります。夜ずっと見ているわけにもいかないので、犬が側で寝ていて気づいてくれると安心できます」と話してくれました。



また、りあんちゃん本人は、「犬はずっと飼いたかった。家族で飼うのは初めてで、低血糖アラート犬のことを聞いて、絶対飼いたいと思った。アニモに会って、かわいくて懐いてくれていて、いろんなトレーニングと一緒にするのを楽しみにしています。8月にホームステイに来てくれるのが待ち遠しいです」と話してくれました。

新しい仲間が増えました！

今年も4月に新入社員を迎えることができました。数か月に及ぶ各犬舎での研修が一通り終了すると、スコラ、西山シェルターを中心に新スタッフが配属される予定です。20代を中心に、全国から「殺処分ゼロ」に共感して神石高原町に移住してくれました。大変な業務ですが、スタッフ一同引き続き頑張っ取り組んでいきたいと思ひます。



TOPICS

「現場を見て安心」ふるさと納税 寄付者の施設見学ツアーを開催しました！

ピースワンコ・ジャパンでは、さる5月18日・19日に、「ふるさと納税」返礼品の1つとして、スタッフによる説明やボランティア体験などを組み込んだ1泊2日の施設見学ツアーを実施しました。参加者は仙養シェルター、スコラシェルター、福山譲渡センターを訪問し、愛護センターから引き取られた直後から、譲渡までの過程を見ていただきました。各犬舎では、飼育管理の試行錯誤、犬のトレーニングやマッチングの苦勞など様々な話題や質問が出て、スタッフとの交流もできました。「想像をはるかに超えた規模。実際に見ないとわからないですね」「スタッフが犬たちを理解して愛情を注いでいる姿を見られてほっとしました」など多くの感想をいただきました。今後もツアーが企画されています。ワンコスタッフにとっても、実際に支援者の方々の声をきくことができ、大きな励みになりました。

ピースワンコ・ツアー：<https://peace-wanko.jp/engagement/wankotour.html>



メディア掲載

東京新聞「にっぽんルポ」

東京新聞夕刊の特集「にっぽんルポ」でピースワンコの活動と代表の大西健丞が紹介されました。なぜこの困難の多いプロジェクトを続けるのか、その出発点となった想いとは？活動し続ける信念、スタッフの想いが掲載されています。

記事URL：<https://bit.ly/2J5I8Bn>



働き方メディア Fledge

「殺処分ゼロ達成で、広島の色が青く明るくなったと日々感じている」、「仕事はボランティアの延長、犬にも楽しさは伝わる」、働き方メディアFledge(フレッジ)に、保護犬の飼育現場で働くプロジェクトマネージャー安倍誠の仕事と熱い想いが紹介されました。

記事URL：<https://fledge.jp/article/peace-wanko>



2018年度 ピースワンコ・ジャパン収支報告

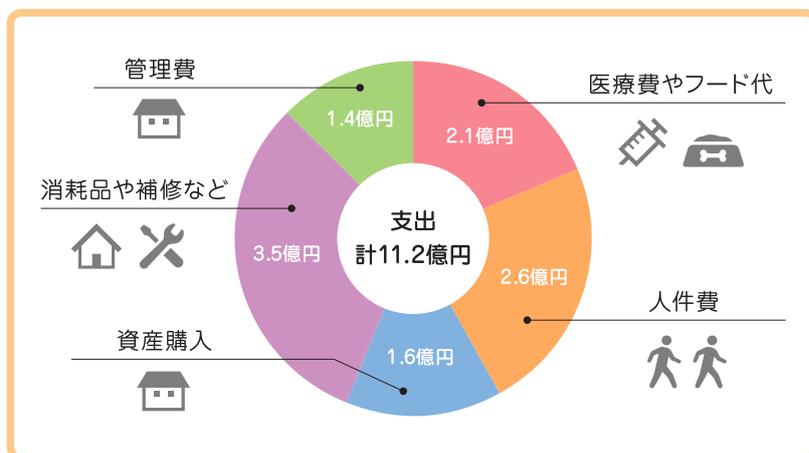
ピースワンコ事業は皆さまのご支援によって支えられています。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。2018年度の収入は、約23,000人のマンスリーサポーターや会員の方々の会費(約4.5億円)、ふるさと納税によるご寄付(約4.8億円)、ピースワンコ事業への直接ご寄付(約1.6億円)、事業収入(約0.3億円)となりました。一方、支出は手術代・ワクチン代などを含む医療費・フード費(約2.1億円)、100人以上のスタッフ人件費(約2.6億円)、犬舎・シェルターの建設費(約1.6億円)、消耗品やシェルター・各譲渡センターの補修費(約3.5億円)、光熱費や広報費などの管理費(約1.4億円)となっています。ピースワンコ・ジャパンを運営するピースウィンズ・ジャパンは認定NPO法人です。すべての収支をNPO会計基準に則って適正に処理し、会計報告を作成しており、外部の公認会計士による会計監査も受けております。

収入：計11.2億円

- サポーター会費 4.5億円 (40.1%)
- 特定寄付 1.6億円 (14.3%)
- ふるさと納税 4.8億円 (42.9%)
- 事業収益 0.3億円 (2.7%)

支出：計11.2億円

- 医療費やフード代 2.1億円 (18.8%)
- 人件費 2.6億円 (23.2%)
- 資産購入 1.6億円 (14.3%)
- 消耗品や補修など 3.5億円 (31.2%)
- 管理費 1.4億円 (12.5%)



東京マラソン2020チャリティを通じて、ピースワンコを支援していただける方を大募集!

2019大会同様、認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパンが実施する“ピースワンコ・ジャパンプロジェクト”が東京マラソン2020チャリティの寄付先団体の1つに選ばれました。ピースワンコ・ジャパンでは現在、東京マラソン2020チャリティにチャリティランナーとして出走していただける方を大募集しています。

チャリティランナーとして参加する!

10万円以上寄付していただくと、チャリティランナーとして東京マラソン2020チャリティに参加することができます(フルマラソンのみ・先着順3,700名)。7月2日に公開されるチャリティ公式ウェブサイトよりピースワンコ事業を選択し、お申し込みをするとチャリティランナーとして参加することができます。

アクティブチャリティランナーとして参加する! ※法人を含む

20万円以上のご寄付を直接ピースワンコにいただくことで、アクティブチャリティランナーとして参加することができます。アクティブチャリティランナーの方には寄付者プログラムも設けていますので、ご興味がある方はお気軽にお問い合わせください。

※ピースウィンズ・ジャパンは、東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体です。東京マラソン2020チャリティ公式ウェブサイト: <https://www.marathon.tokyo/charity/>



問い合わせ先：ピースワンコ事業東京マラソンチャリティ係
pr@peace-winds.org



フェアトレード&ピースコーヒー：Peace Winds Shop

ワンコ事業が応援できる夏季限定ギフトができました。商品代金の内100円が、寄付になります。応援よろしくお願いたします。 <https://pwshop.ocnk.net/product/2299>



ピースワンコ・ジャパン

〒720-1702 広島県神石郡神石高原町上豊松72-8 TEL/FAX：0847-89-0039

<https://peace-wanko.jp/>



<発行> 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

ピースワンコ・ジャパンプロジェクトは、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンが運営しています。

<https://peace-winds.org>

● 2019年ふるさと納税受付しています <https://www.furusato-tax.jp/gcf/530>

ふるさとチョイスGCF(ガバメントクラウドファンディング) 罪のないワンコが殺されています ふるさと納税(寄附)で犬の殺処分ゼロを!